

二〇二四年度 札幌大谷大学音楽学科

一般選抜Ⅰ期

小論文

注意事項

- 1 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません
- 2 問題冊子は三ページあります。
- 3 試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。

問題 次の文章は、戸谷洋志とやひろしの著書、『友情を哲学する 七人の哲学者たちの友情観』の「第1章 友情とは何か アリストテレス」の中の一節です。読んで後の問い（問1～問3）に答えなさい。

なぜ友達が必要なのか？

手前から議論を始めよう。そもそも、なぜ、私たちには友達が必要なのだろうか。

生物として生きるだけなら、私たちに友達はいらない。食事や睡眠さえしていれば生きることにはできるからだ。その意味において、他者と友達になることは、生物として生きている限り不必要なこと、いわば余分なことである。

もちろん、人間は単なる生物ではなく、社会的な生き物でもある。社会生活をする上ではやはり友達が必要だ。そのように考えることもできるかも知れない。しかし、インターネットの発達によって、そうした常識も崩れつつある。

たとえば、哲学者の東浩紀あずまひろのきが指摘するように、私たちは「書籍を買うときに、あるいは週末に行く映画や美術館を選ぶとき」に、友達の意見を聞くのではなく、まず情報をインターネットで検索する。それは、友達の意見よりも、ネット上の情報の方を信頼しているからだ。東はこれを「友情と信頼の対立」と呼ぶ。つまり私たちは、顔の見える友達よりも、「顔も名前も知らない無数の人々の消費行動から抽出された、巨大なデータベース」の方を信頼しているのである。

これまで友達に頼ってきたことのほとんどが、インターネットによって代替できるようになる。私たちは、たとえ一人も友達がいなかったとしても、普通に生活することができる。したがって、社会生活の面から考えても、友達はや不必要であるということになる。

それでも私たちに友達が必要なのだろうか。それとも友達は、人生の嗜好品しこうひんのようなものであり、なくても困らないものに過ぎないのだろうか。

こうした疑問に対するアリストテレスの考えは明確である。すなわち彼は、それでも人生に友達は必要である、と答えるだろう。

(中略)

三つの友情

人生には友情が必要である。では、そのとき友情とは何を意味しているのだろうか。

アリストテレスは友情を一つの愛として説明する。友達を愛することが友情なのだ。ただし、これではまだ説明になっていない。私たちはどのように友達を愛するのだろうか。またなぜその友達を愛するのだろうか。

アリストテレスの考える愛は、決してすべての人間を普遍的に愛することではない。私たちには、友達として愛することができる人と、愛することができない人がいる。両者を分けるものは何だろうか。それはその人が、愛されるに値する何かを持っているか否か、ということに他ならない。私たちは、その何かを持っている人を愛するのであって、それを持っていない人は愛さないのである。

それでは、愛されるに値する何かとは、具体的に何だろうか。アリストテレスはそうした価値として三つのものを挙げている。すなわち、「**快樂**」「**有用さ**」「**善良さ**」である。友情とは、相手が持つこれら三つの価値を愛する関係である。そうである以上、友情そのものも、それが相手の何を愛するかによって三種類に分けられる。すなわち、「**快樂に基づく友情**」「**有用さに基づく友情**」、そして「**善良さに基づく友情**」だ。

快樂に基づく友情とは、「相手といることが快樂であるような関係である。ここでいう快樂とは、一緒にいて楽しい、愉快だ、気持ちがいい、といったような意味である。特に何かがあるわけではないが、その人といいつも笑っていて、居心地がよく、他愛のない話ができる。気を遣わず、リラックスしていられる。そうした友達と交わされる友情は快樂に基づくものである。たとえば、教室のなかでふざけて大笑いするだけの友達、一緒にごはんを食べる友達、居酒屋で愚痴を言い合うだけの友達などは、このタイプの友情だろう。」

有用さに基づく友情とは、何らかの目的を達成するための手段として、仲良くしている相手との関係である。ビジネス上の友達と言うこともできるかも知れない。たとえば、勉強を教え合うための友達同士は、テストで良い点を取る、という目的のために相手と仲良くしているのであり、その意味では友達を役に立つものと見なしている。また、会社のなかでプロジェクトのメンバー同士が互いを「戦友」のように扱う場合も、このタイプの友情に該当するだろう。①ただし、その関係があくまでも相互的なものでなければ、そこに友情と呼ばれるような関係は成立しないだろう。

善良さに基づく友情とは、相手の善良さに惹かれ合うようにして結ばれる関係である。善良さとは、その人自身が持つ優れた性質であり、卓越性や「徳」と言い換えることもできる。平たく言えば、その人の人らしさ、その人の個性、その人のオリジナルな魅力のようなものだ。たとえば思慮深い人同士が、互いの思慮深さに惹かれ合って交わす友情は、思慮深さという互いの善良さに根差した関係性である、と考えることができる。②一般に、親友と呼ばれる友情関係はこのタイプに該当する。

(光文社新書 二〇二三年二月刊)

問1 傍線部①で、「その関係があくまでも相互的なものでなければ、そこに友情と呼ばれるような関係は成立しないだろう。」と筆者が主張するのはなぜか。六〇字以内で説明しなさい。

問2 傍線部②において、筆者が「善良さに基づく友情」を「親友と呼ばれる友情関係」と見なすのはなぜか。一〇〇字以内で説明しなさい。

問3 あなたは友情が必要だと考えますか。その理由を含めて、あなたの考えを七〇〇字程度で述べなさい。